佳作

千人に一人のぼくとうめの花

宮城県 仙台市立市名坂小学校四年　山口 喜永

「オギャー、オギャー。」
とぼくは、生まれた時になかなかったそうです。ぼくは、山形県米ざわ市の病院で生まれました。ぼくが生まれた時は、息をしていなくて、お母さんはかんごしさんに、
「お母さん、あっちを向いてて下さい。」
と言われたそうです。ぼくは、その話を聞いて、ショックを受けました。なぜなら、
「オギャー、オギャー。」
となないてふ通の人のように生まれたと思っていたからです。しかし、その時のぼくは、か死じょうたいの姿でした。ぼくは、どんなに苦しかったんだろうなと思いました。また、ぼくには生まれつき、下あごに二本の歯が生えていたそうです。かんごしさんはおどろきながら、
「お母さん、下の歯が二本ありますよ。」
と言ったそうです。ぼくは、その話を聞いてまるでドラキュラのようだと思いました。生まれた時に歯が生えているのは、千人に一人だそうです。この前、ぬけおちた歯を見ました。歯は少し黄色かったけど、生まれた時から生えている歯はかわいいなと思いました。この歯があるために、ぼくは母にゅうを飲む時にかんでしまいました。お母さんは、とてもいたかったそうです。お母さんにとってとても強い力をもつ赤ちゃんで、とても大変だったんだろうなと思いました。
「はる君は、春夏秋冬のどれが好き。」
とお母さんに聞かれました。ぼくは、
「春だね。」
と答えました。なぜなら、春になると心がわくわくしてくるからです。通学路のと中に、うめの木があります。こういうめの花がさいているのを見ると、春が来たんだなと毎年感じます。うめの花言葉を調べると、気品、ちゅう実、にんたい、高けつだそうです。にんたいという言葉にびっくりしました。ほかの言葉は美しい意味だったからです。お父さんに聞くと、
「にんたいとは、冬のきびしい寒さをしのいで、あたたかくなったらさくんだよ。たえてこそよりいっそうきれいにさくんだよ。」
と教えてくれました。ぼくは、その言葉を聞いて、身近なうめの花がいっそうきれいに見えました。生まれてきたぼくも同じかなとも思いました。また、調べてみると、元号のれい和の由来は、うめの花にあることが分かりました。万葉集のばい花のうたげからきたことが分かりました。れい和とうめが、深いつながりがあると知って、ぼくの心をうばわれました。
ぼくは、お母さんから生まれた時の話を聞いて、人ってふ思議だなと思いました。生まれてきたのがきせきのようで、今ではすっかり元気になりました。かぜもひきません。れきしが好きで昔の世界についい見入ってしまいます。こんなぼくを育ててくれたお母さんの愛じょうにとても感しゃをしたいなと思いました。